

2021年(令和3年)3月23日(火曜日) 夕刊 読売新聞 4版 2

かんさい サーチ TUE

SDGs 未来への約束 action

食器も完食 ごみ減らす

「食べられる」カップ、ストロー、おむしりを使い捨てに替わってしまった日常の感覚を、楽しみながら変えるきっかけになればおもしろい。そんな思いで、だが循環が閉まるまでに食べられる食器をいろいろ試しに口にしただけ。なぜか、そうしたものを作ってみたいという思いが、それ以上に広がった。おもしろい？と訊かずに済みますか。

（編集部員 橋本真衣）

カッキーで
クッキーで
「ラビニ」が提供するR・Jカフィー(大阪市北区天保)は、食べられるカップ「エコラビ」を提供する。クッキー生地、小麦粉不使用のケルナコーヒーの多量入りが、社長の橋本真衣さんが、夫婦でカフェを始めたのは2018年。濃厚な味わいのエスプレッソの専門店だが、「使い捨てが当たり前」と当初は悩んで、経営に苦しんだ。

環境がテーマの催しに参加した際、再利用できる食器が用いられていたものの、水や洗剤を多量に使う様子が見えなくなった。青いエスプレッソのボトルを、逆にクッキーの中心に置いてみる。おむしりつき、アリンカップを使って試す。アリンを砂糖とコーティングすることで耐水性を高め、18年から販売した。SDGsを導き入れるお客さんが

井当カップ
木村アルミ箔(大阪市中央区)は、井当に使うお茶を入るカップを手がける。おぼろ、おぼろ大豆などが材料の食べられるカップの販売が近年伸びているという。18年から、おぼろ大豆とアリンを組み合わせ、これを塗ることで耐水性を高める。木村裕一(さん)の親が18年から創業。現在は、カッキーの成型機を導入し、主力商品として

組み合わせ
アイスクリームのモナカ

「SDGs 未来への約束」は4月から毎月1回・1・3・5水曜日に掲載します。次回は4月7日です。

12 つくる責任 つかう責任
14 海の豊かさを 守ろう
17 パートナースHIPで 目標を達成しよう

木村アルミ箔の 木村裕一社長

食べられるカップに いろいろのせて。 焼きのりも、おぼろ 昆布市風味豊か

プラスチックごみによる海洋汚染が
問題化するなど、廃プラスチックに
対する関心の高まりを受けて、「食
べられる食器」が注目を集める中、
弊社の「食べられるうつわ」シリーズ
も販路が拡大しつつあります。

木村アルミ箔の 木村裕一社長

食べられるカップに いろいろのせて。 焼きのりも、おぼろ 昆布市風味豊か